Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2015年９月）

発表日：2015年11月６日（金）

～一致ＣＩ、先行ＣＩとも３ヶ月連続の低下～

第一生命経済研究所　　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○景気の停滞感は強い

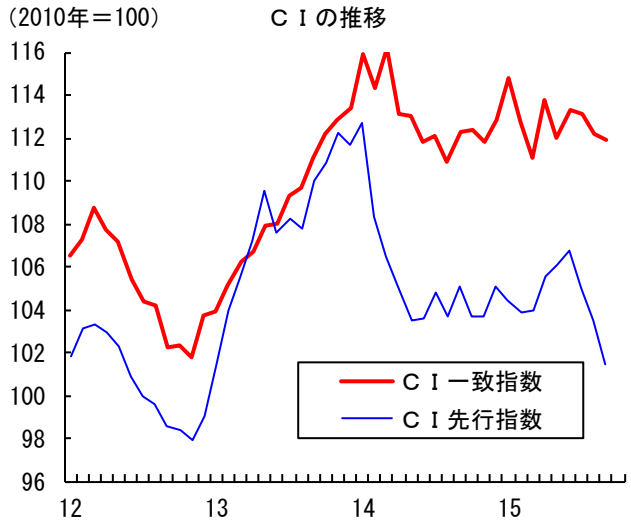
内閣府から公表された 2015 年９月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差▲0.3 ポイント（８月：▲0.9 ポイント）となった。小幅ではあるが３ヶ月連続の低下であり、景気の停滞感が強いことが示されている。９月の内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数などがプラス寄与になった一方、中小企業出荷指数や卸売業販売額などの下押しが大きく、全体では小幅マイナスになった。

10 月 29 日に公表された９月の鉱工業生産は事前予想を大幅に上振れたものの、７-９月期で見ると前期比で明確なマイナスである。減産幅も４-６月期に匹敵するものとなっており、生産活動は弱いままだ。また、７-９月期のＧＤＰ成長率もほぼゼロ成長にとどまったと予想され、４-６月期に続いての弱い結果という評価になるだろう。７-９月期は輸出や個人消費がプラスに転じたとみられるが、４-６月期の大幅な落ち込みからの反動増の域を出ていない。また、期待された設備投資がまたも不発に終わっており、景気は牽引役不在の状況にある。先行き不透明感も依然強く、景気の足踏み感が解消されるには、もう少し時間がかかりそうだ。

また、９月のＣＩ先行指数は前月差▲2.1 ポイントと大幅に低下した。内訳では、東証株価指数や消費者態度指数、日経商品指数などのマイナス寄与が大きく、全体を押し下げている。ＣＩ先行指数は７月の▲1.7 ポイント、８月の▲1.5 ポイントに続いて３ヶ月連続での大幅低下であり、３ヶ月間での悪化幅は合計▲5.3 ポイントに達する。ＣＩ先行指数の悪化は先行きの景気を見る上で大いに懸念されるところだ。

○ 基調判断は「足踏み」維持

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」であり、足元の景気が停滞していることがここでも確認される。なお、基調判断が「改善」に上方修正されるためのハードルも、「下方への局面変化」に下方修正されるためのハードルも、現状ではともに高い。当面「足踏み」判断が継続しそうだ。



（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。